

『愛玩動物看護師国家試験対策 楽しく学べる参考書』（第1版第1刷）
訂正とお詫び

掲載記事中、以下の記述に誤りがございました。ここに訂正させていただくとともに、読者の皆様および関係者の方々に深くお詫び申し上げます。

株式会社 EDUWARD Press
2026年2月8日作成

頁	記事タイトル	該当箇所	誤	正
p. 13	第1章「遺伝子異常」	表の下から2行目	ライゾソーム病	ライ ソ ゾーム病
p. 39	第1章	▼支持組織の分類の表上から3コマ目中央	軟骨組織と軟骨気質で構成	軟骨 細胞 と軟骨気質で構成
p. 70	第1章「肢の関節」	「後肢」のイラスト引き出し文字部	中骨骨	中 足 骨
p. 97	第1章「血圧の調節」	「主な血圧調節因子」の表の「血圧低下作用」の一番下	・ドーパミン	削除
p. 109	第1章「胎子期の血液循環」	「▲胎子期の血液循環」の図、後大静脈のすぐ上の引き出し部	引き出し線先が空欄	腹大動脈
p. 119	第1章「心電図、心音、心室の動き」	心電図波形図の左にある収縮期の開始位置	「S」から始まっている	「R」の真下から始まる ※以下より修正後の表をご確認ください。 https://x.gd/JenZ4
p. 130	第1章「ヘマトクリット値(Ht値)と血	囲みの下から2行目	自分たちで輸血していたら	自分たちで 輸液 していたら

	清総タンパク質 (TP)」内			
p. 133	第1章	下から2行目	複数腫の～	複数種 の ～
p. 136	第1章「移行抗体」	上から6行目	初乳を介して～	常乳を介して～
p. 146	第1章「犬のワクチン」の表	表左の「コアワクチン」を示す範囲	1行目～3行目まで	1行目～4行目まで (「犬伝染性喉頭気管炎」も含む)
p. 148	第1章「輸血副作用」	上から5行目	主試験として受血動物の赤血球と供血動物の血漿を、副試験として受血動物の血漿と供血動物の赤血球を混合し、赤血球の凝集反応の有無を判定する。	主試験として 供血動物 の赤血球と 受血動物 の血漿を、副試験として 供血動物 の血漿と 受血動物 の赤血球を混合し、赤血球の凝集反応の有無を判定する。
p. 149	第1章「交差適合試験 (クロスマッチ・テスト)」	表に示された矢印	<ul style="list-style-type: none"> ・受血動物の赤血球と供血動物の血漿が主試験 (太い矢印) ・供血動物の赤血球と受血動物の血漿が副試験 (細い矢印) 	<ul style="list-style-type: none"> ・受血動物の赤血球と供血動物の血漿が副試験 (細い矢印) ・供血動物の赤血球と受血動物の血漿が主試験 (太い矢印) <p>※矢印が逆</p> <p>※以下より修正後の画像をご確認ください。</p> <p>https://x.gd/JY47J</p>
p. 169	第1章「血液凝固因子の種類」	表内「その他ポイント」上から2行目	EDTAは抗トロンビン作用で抗凝固、～	ヘパリン は抗トロンビン作用で抗凝固、～
p. 223	第1章「BUNとCre」	下から8行目	尿中に排泄されないのです。	尿中に 排泄されてしまう のです。
p. 236	第1章「歯周病の検査や治療器具」	上から4行目	把持できない歯の抜糸	把持できない歯の 抜歯
p. 240	第1章「主な実験動物の特徴」	表の「ウサギ」上から7マス目「研究」	癌粘膜刺激試験 (ドレイズテスト)	眼 粘膜刺激試験 (ドレイズテスト)
p. 240	第1章 絶対に覚えよう!	ウサギの列の上から6行目	15～16日	30～31日

	「主な実験動物の特徴」の表	「妊娠期間」		
p. 250	第1章「炭水化物」	「主な炭水化物の名称」の表上から2マス目	マルクトース	マルクトース
p. 284	第1章「肝臓の血管」	上から1行目	肝臓に入る血管は門脈（栄養血管）と固有肝動脈で、	門脈と固有肝動脈で、
p. 287	第1章「門脈体循環シャント」	「▲先天性門脈体循環シャントの種類」図内上部の引き出し線文字	後大動脈	後大 静 脈
p. 310	第1章「主なホルモン」	「ペプチドホルモン」の上から3マス目の下に挿入	-	<ul style="list-style-type: none"> ・「下垂体後葉」の下に「甲状腺」のマスを追加。 ・「パラソルモン」の下に「カルシトニン」のマスを追加。 ・「下垂体後葉」の下に「甲状腺」のマスを追加。 ・「バソプレッシン（ADH）」の下に「カルシトニン」のマスを追加。 ※以下より修正後の表をご確認ください。 https://x.gd/Trp31
p. 310	〃	下から2マス目	カルシトニン	削除
p. 361	第1章「脊髄」	図の「視床」の引き出し線が示す位置	大脳基底核を差している	※以下より修正後の引き出し線的位置をご覧ください。 https://x.gd/9f01x
p. 467	第2章	【STEP2】(排出場所)の1行目	感染症病巣	感染症 病床
p. 485	第2章	▲妥当性と精度の関係 注：の下から4行	「系統誤差大きい」	「系 統 誤差大きい」

		目		
p. 502	第3章	表の「感染症・生理学・薬理学分野」下から2行目	鈴木梅三郎	鈴木梅 太 郎
p. 503	第3章「看護記録」	上から2.3行目	Date	Data
p. 510	第3章「▲X線の進行方向」の図	APとPAの矢印と表記	AP PA	CrCd (頭尾側) CdCr (尾頭側) ※以下より修正後の図をご覧ください。 https://x.gd/dn0oz
p. 510	第3章「▲X線撮影のポジショニング」	④APと⑤PA	④ AP (antero posterior) ・前方から後方へX線が透過 ⑤ PA (postero anterior) ・後方から前方へX線が透過	④ CrCd(cranialcaudal) ・頭側から尾側へX線が透過 ⑤ CdCr(caudalcranial) ・尾側から頭側へX線が透過 注) 頭側(Cranial) 尾側(Caudal)
p. 632	第4章「酸性雨」	上から1行目	～pH6.5よりも低い雨を酸性雨と呼ぶ。	～pH 5.6 よりも低い雨を酸性雨と呼ぶ。
p. 643	第4章	「オゾン層破壊」上から6行目	オゾン回収・破壊法	フロン 回収・破壊法
p. 644	第4章「紫外線」	上から4行目	皮膚照射でビタミンDを活性化し、殺菌に利用している紫外線はUV-Aであり、大量に浴びない限りそれほど害はない。	UV-B は皮膚照射でビタミンDを活性化し、 UV-Cは殺菌に利用することができる紫外線である。
p. 644	第4章「紫外線」	上から5行目	UV-B、UV-CはUV-Aよりも強力な紫外線であり、大変有害である。	UV-B、UV-CはUV-Aよりも強力な紫外線であり、 とくにUV-Cは大変有害である。
p. 646	第4章	「特定フロン」上から7行目	オゾン回収・破壊法	フロン 回収・破壊法